
医療コミュニケーション

増田 匡裕 教授
有田 幹雄 非常勤講師

4 年次後期・必修

1 単位・15 時間

【概要・目的】

「患者が医療に求めているのは納得である。単なる治療では医学的情報と技術を与えることはできても納得は与えられない。納得を与えるのは看護である。正しい看護によって医療コミュニケーションが成立することができる。本講義では、医療の中での看護の意味を考える」

本学部設立時の上記の理念を引き継いで、必修科目である 2023 年度までは、後半では応用可能なコミュニケーション理論を学ぶ。また、本年度もカウンセラーによる特別講義も予定されている。

【到達目標】

- 1) 「医療の中での看護の意味」を考える。
 - 2) 医療従事者と患者との関係、医療スタッフ同士の対人関係、そして患者と家族・友人との関係を構築するのに必要なコミュニケーションの理論を応用できるようになる。
-

【授業内容・スケジュール】

	担当者
1) 2) 医療と人間	有田
3) 4) 循環器病の変貌から未来を見据えて	有田
5) 6) 臨床の視点－医療人と患者（家族）のふれあい	有田
7) 8) インフォームド・コンセント：臨床の現場から	有田
9) 10) 比喩による未知・既知の事象の理解(part 1) (part 2)	増田
11) レトリックによる説得的コミュニケーション	増田
12) ナラティブの心理学：なぜ語るのか	増田
13) 自己とフェイス	増田
14) 会話分析とエスノメソドロジー	増田
15) 流言とリスク・コミュニケーション	増田

【評価】

2 名の担当者が 50 点満点で個別に評価したものの合算が最終成績として報告される。

【有田担当分】筆記試験(予定) (70%)、授業への参加態度 (10%)、提出物 (20%)

【増田担当分】ショートペーパー課題(5 回出題中 3 回提出)であるが、コミュニケーションに関心のない学生には別課題が用意されている。増田担当初回で配布される授業運営用シラバスに詳述。

【教科書】

【増田担当分】末田清子「コミュニケーション・スタディーズ」 新曜社 2021

【推薦参考図書】

【有田担当分】中村雄二郎「臨床の知とは何か」岩波新書

【その他】

【有田担当分】座学の講義形式でなく、課題を与えて自ら考える講義形態で行う。

【増田担当分】この科目は 2024 年度より選択科目になる。移行措置的な授業が展開される。教科書は授業では 1-3 回程度しか用いないが、「人間関係論」の発展的な内容であり、特別講義にも関連する。図書館で借りた本の授業への持ち込みは許可されるが、コピーは不可である。

